

会報

第551号

富士市立富士第一小学校 校長 和田 精吾

本校が建つ地域は「加島の里」の名で親しまれ、平安時代には「加嶋荘」、江戸時代には東海道の要衝として栄えてきました。明治10年「加島学校」として創立した本校は、143年の歴史をもちます。また、JR富士駅から徒歩5分の商店街に位置するため、交通量も多く、「登下校パトロール」等子どもを安全に見守る活動にも長い伝統があります。

校訓 『強い体 強い心』
学校教育目標 『しなやかに 挑み続ける ～支え合い 一步踏み出す子～』
重点目標 『よし、やってみよう!』

本年度の学校教育目標は、小中一貫教育に向けて、中学校区三校で統一をしました。“しなやか”とは、“弾力があってよくしなうさま”“人の姿態がたおやかで優美なさま”とあります。子どもたちは、ますます変化の激しい時代に生きていきます。そこで、少々のことではへこたれない強さや、物事をしっかり見つめ考えよりよく変化させていく想像力、多様な人と上手にかかわる柔軟性、そして品格、などをもった人に育ててほしいと願っています。また、重点目標の「よし、やってみよう!」は、子どもたちが一步前に踏み出す姿をイメージしています。“よし”は、自分で考え判断した姿です。自分の思いを大事にしたり、友達と協力したりしながら取り組もうとする、納得と期待のこもった姿です。予測が困難な時代にあっても、自分で考え判断し行動する、前向きで力強い子どもを育てたいと考えております。

さて、本校には、市内全域を対象とした「ことばの教室」が設置されています。現在、市内21校から、58名の児童が通級しています。3名の指導担当が、保護者や言語聴覚士、在籍校担任と連携を取りながら指導を進めています。先日担当者からこんな話を聞きました。3年生の男子が、ことばの教室の廊下でもじもじと不安そうにしていたそうです。この子は1年生のときに、発語の練習のためにことばの教室に通っていた子です。担当者が何をしているのか尋ねると、こんな話をしてくれたそうです。“自分が友達と話をしているときに、「んっ?」と聞き返された。それで、自分の発語が上手にできていないのかと不安を感じて、以前に通っていたことばの教室を尋ねてみた。”と。誰に言われたわけではなく、ことばの教室を抛り所に感じ、自分の不安を自分で考えた方法で解決しようとした姿に心を打たれました。

通級指導室の果たす役割はとても大きいと考えています。この教室の時間は児童に安心を与え、自己肯定感を高める時間になっています。

〈教室紹介〉

昭和39年、吉原市(現富士市)に県下初の言語治療教室が開設され、昭和48年にその分校として富士第一小学校に言語治療室が設置されました。その後、一旦なくなりますが、再び、平成7年「富士第一小学校 ことばの教室」として1教室が設置されました。富士市全域が通級対象としています。通級児童の増加に伴い、平成28年に2教室になりました。今年度スタート時は、56人。3人の教員(一人非常勤講師)で支援にあたっています。また、教育支援センターにお勤めの言語聴覚士さんも頻りに学校に訪れて、一緒に支援を行ったり、アドバイスをいただいたりしています。時間を掛けて通級してくる子どもたちや保護者のみなさんが笑顔になって帰っていけるよう、今後も、研修を積みながら取り組んでいきたいと考えています。



〈教材紹介〉

文字カード・短文カード



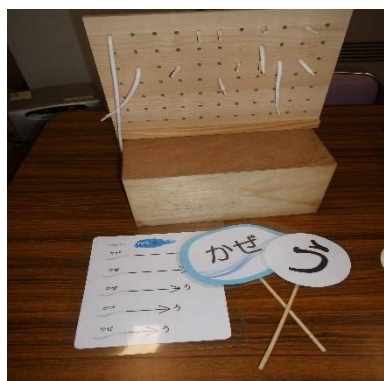
カ・ガ行、サ・ザ行、タダ・行、ラ・ダ行の文字カード・絵カードがそれぞれ語頭・語尾・語中に分けて2組ずつ作ってあります。文字カードを使い発音の練習をした後、絵カードを使います。絵カードは、神経衰弱をしたり、並べてすごろくにしたりし、遊びながら練習を行っています。それぞれのカードが引き出しに整理されて入っているので、その日の指導にあわせて持ち出すことができ、便利です。

カルタ・カード



口や舌の体操、構音の練習をした後の遊びに使います。なぞなぞカルタや3ヒントカルタ、ジャンボかるたなどがあります。促音を覚えるための促音カルタなど自作のものもあります。今はやりのキャラクターなどを入れたカードなどは、文を読むのが苦手な子どもも意欲的に読むことができます。一文字一文字の拗音カードには、残念カード、ラッキーカードがあり、坊主めくりのようにめくって遊びます。拗音が読めるかどうか確かめながら、遊んでいます。

ス音やガ音の音出し



サ行の構音に必要な摩擦音やス音、カ音の音を練習する時に使います。以前静言研で紹介されたものを作ってみました。紐を引っ張る間、「風の音」を出すのですが、長さが違うので、くじを引いているような感じで、楽しみながら練習ができます。ペープサートは、摩擦音「S」からス音を導くときに使っています。

単音・無意味音練習グッズ



単音の練習は単調になりがちですが、正しく発音できたら、コインを一枚、宝石を一個わたします。子どもはお皿にコインや宝石を集めます。ただ集めるだけでも、子どものモチベーションは、上がりますが、後でこのコインを使って、ポカポンゲームなどの対戦を行うと、さらに意欲的に取り組みます。無意味音節の練習の時には、ジャンケンカードやドミノの駒の平仮名に獲得したい音を付けて言い慣れを図っています。

すごろく



構音の子どもとは、サ行やカ行などの単語のかかれたすごろくを使って、練習してたり、キーワードを探したりしています。吃音の子どもたちには、ジェスチャーやいろんな声の出し方、質問などお題カードを使いながらすごろく遊びを行います。自作のすごろくなども使っています。すごろくの中だと、いろいろな話し方や質問にもスムーズに答えてくれます。

さいころ・もじぴったん



授業の最初や最後の時間に、語彙を増やすための活動や音韻認知を高める活動を行っています。サイコロを全部広げて2分間でしりとりがいくつ続けられるかを競ったり、「あ」の付く言葉をいくつ作れるかなどを競ったりしながら遊びます。体も動かしながら遊べるので、リクエストの多い活動です。「もじぴったん」は、語頭だけでなく語尾、語中に文字を当てはめて考えられるので、語彙がどんどん広がります。